

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

大牟田市立天領小学校

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	大牟田市立天領小学校 第4学年（2クラス） 65名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育科 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>短い助走から調子よく踏み切って高く跳ぶ活動を通して、跳ぶ動きの楽しさや心地よさ、スポーツの楽しさを味わう。また、他の種目との関連をもたせることで、十種競技に興味を持ち「スポーツを楽しむ心」の育成につなげる。</p>
5 取組内容	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">   </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>児童が「高跳び」に興味・関心を持って活動できるように、単元の始めに世界最高記録の走り高跳びの映像を見せた。自分も選手のように少しでも高く跳びたいと、自分の跳び方と選手の映像での跳び方を比較し、「勢いをつけるために踏み切るときに腕を振り上げよう。」「助走がリズムカルだね。」と、動きのポイントを見つける時間を設定した。</p> <p>また、児童1人1人の動きがより高まるように、助走・踏み切り・空中姿勢の3つの練習の場を設定し、自分の課題に応じた場を選択して練習を行った。</p> <p>各時間の最後には、高まった高跳びの動きを発揮できるように、自分の記録に挑戦する時間を設定し、「すごい、この前よりも高く跳んでいる。」「お尻が高く上がるようになっていたよ。」と、お互いの頑張りやよさを共有した。</p> <p>単元の最後には、これまで学習してきた新体力テスト、陸上競技等と関連させ、「十種競技」のようにいくつかの競技の合計で表彰式を行った。</p> </div> </div>

<p>6 主な成果</p>	<p>○ オリンピックの教材化 単元の1時間目に、オリンピック選手の走り高跳びの映像を見せることで、高跳びの種目に興味・関心を持ち、オリンピック選手のすごさを実感させることができた。 高跳びだけで終わらせるのではなく、「十種競技」と名付け、これまで学習してきたマット運動や新体カテスト、陸上競技等と関連させることで、各スポーツの繋がりを実感したり、「十種競技」という種目があるということを見童に知らせたりすることができた。</p> <p>○ 見童の様子から 「十種競技」を経験することで、「そんな競技があるんだ。」とスポーツへの関心を広げ、「やってみたいな。」「挑戦したいな。」という意欲を持って、高跳びに取り組むことができた。 また、実際に自分たちが高跳びに挑戦することによって、体が宙に浮くことの楽しさを感じるとともに、「あんなに高く跳んでいた選手はすごいね。」とオリンピック選手のすごさを再確認することができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>高跳びに興味・関心を持つとともにオリンピック選手のすごさを感じさせるため、単元の始めにオリンピックの高跳びの最高記録を映像で見せた。 また、十種競技という種目を知り、様々な種目を「楽しむ心」を育成するために、単元名を「リズムカルに高くジャンプ！目指せオリンピック」として見童の意欲を引き出すようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>見童1人1人の運動量を確保するために、マットやバーの道具をより充実させるとともに、高学年での「走り高跳び」と本単元である「高跳び」の動きをスムーズに結びつけることが必要である。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>本年度に開発したオリンピック教材を、4年生の年間指導計画に位置付け、今後の継続的・発展的な学習へとつなげていきたい。また、高学年の「走り高跳び」の学習へと系統性を持って進めていきたい。</p>